

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

令和4年度

事業報告書及び決算書

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日



EXPO'90
FOUNDATION

目次

事業報告書

I. 事業

1. 顕彰事業	9
(1) コスモス国際賞	
(2) BIE コスモス賞	
(3) 全国花のまちづくりコンクール事業	
2. 助成・協働事業	11
(1) 花博自然環境助成事業	
(2) 地域協働事業	
3. 普及啓発事業及び国際交流事業	12
(1) 次世代育成事業	
(2) 都市緑化推進運動等への協力事業	
(3) 普及啓発事業	
(4) その他普及啓発事業	
(5) 国際交流事業	
4. 調査研究・資料収集事業	17
5. 附属明細書	17

II. 庶務・管理

1. 理事会・評議員会等	19
2. 内閣府届出及び情報公開	22
3. その他	22

決算書

III. 財務諸表

1. 貸借対照表	25
2. 正味財産増減計算書	27
3. 正味財産増減計算書内訳表	30
4. 財務諸表に対する注記	33
5. 附属明細書	36
6. 財産目録	37

IV. 監査報告書	39
-----------	----

令和4年度

I. 事業

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日

はじめに

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会（以下「協会」という。）は、国際花と緑の博覧会（以下「花の万博」という。）の「自然と人間との共生」という理念を継承し発展させることを目的に、各種事業を行っている。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）の対策を施し、事業は計画どおり行った。

また、第2次中期計画の初年度として、コスモス国際賞受賞者等の英知の周知に係る出版や、関係機関との協力により相乗効果を図る連携、協働等の体制を構築した他、各事業の浸透等を図るための広報戦略を策定した。

1. 顕彰事業

(1) コスモス国際賞

花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」（以下「コスモス賞」という。）の2022年（第29回）受賞者の選考及び授賞式等を次のとおり実施した。

また、2023年（第30回）の受賞候補者の推薦を国内外の推薦人に依頼するため、推薦状を発送した。

ア. 受賞者の選考等

コスモス賞委員会（以下「賞委員会」という。）及びコスモス賞選考専門委員会（以下「選考委員会」という。）を設置し、次の選考作業を行った。

① 2022年（第29回）受賞者の選考等

- ・ 令和4年5月9日、5月24日に第1回、第2回選考委員会が開催され、2022年受賞者選考対象174件の推薦に基づき、慎重な選考作業が実施された。
- ・ 令和4年6月27日に第3回選考委員会及び第2回賞委員会が開催され、2022年受賞候補者にフェリシア・キーシング博士（米国・バード大学教授）が選定された。
- ・ 選考の経緯及び結果は、令和4年7月20日開催の第114回理事会に推挙され、受賞者として決定した。また、同日午後、国内外の報道機関に対して記者発表を実施した。

② 2023年（第30回）受賞者の選考準備等

- ・ 令和5年1月17日に第1回賞委員会が開催され、2023年（第30回）受賞者の受賞者選考に対して選考方針及び今後の日程等について審議された。
- ・ 国内外約1,800名の推薦人に対し、受賞候補者の推薦依頼を行った。

イ. 2022年(第29回)コスモス賞授賞式の開催

国内外からの賓客及び招待者約350名の参加(オンライン参加含む)のもと、授賞式を開催した。

なお、感染症の影響により、授賞式を中止した2021年の受賞者ピーター・ベルウッド博士もお招きした。

日時：令和4年11月9日(水)午後3時～5時

場所：住友生命いずみホール(大阪市中央区)

出席者：約350名(オンライン参加含む)

ウ. コスモス国際賞受賞記念講演会

2022年受賞者フェリシア・キーシング博士による講演会を次のとおり開催した。

日時：令和4年11月13日(日)午後1時30分～3時30分

場所：東京大学大講堂(東京都文京区)、オンライン

共催：東京都教育委員会

後援：文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、アメリカ大使館、日本生態学会、日本獣医学会、日本細菌学会、日本ワンヘルスサイエンス学会

参加者：現地参加200名、オンライン参加450名

内容：

- ・受賞者紹介

白山義久博士(コスモス国際賞選考専門委員会委員長、京都大学名誉教授)

- ・受賞記念講演「生物多様性の損失と感染症」

フェリシア・キーシング博士

- ・話題提供

岡部貴美子博士(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所生物多様性・気候変動研究拠点研究専門員)

- ・対談、質疑応答

対談者：フェリシア・キーシング博士、岡部貴美子博士

コーディネーター：佐倉統博士(コスモス国際賞選考専門委員会委員、東京大学大学院情報学環教授)

(2) 全国花のまちづくりコンクール事業

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画し、主催者の一員として第32回(2022年)花のまちづくりコンクールを実施した。

応募数：694件

入賞：農林水産大臣賞、国土交通大臣賞 各2点及び文部科学大臣賞1点をはじめ
27点

開催日(表彰式)：感染症拡大のため中止(受賞者に書面にて通知)

主 催：花のまちづくりコンクール推進協議会（当協会、公益財団法人日本花の会、公益財団法人都市緑化機構、一般財団法人日本花普及センター）

2. 助成・協働事業

（1）花博自然環境助成事業

花の万博の理念の継承発展・普及啓発につながる調査研究や活動並びに被災地復興を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、助成事業を実施した。

なお、被災地の復興活動支援については、阪急電鉄株式会社からの寄附金を充当し実施した。

ア. 令和4年度助成事業

令和4年度は、別表1の29団体に対し、総額事業費12,980,404円の助成を行った。

（別表1）

	助成団体名	事業名
調査研究	一般財団法人沖縄美ら島財団	沖縄の伝統的景観木の新たな病害防除に関する調査研究
	NPO 法人生物多様性研究所あーすわーむ	浅間山の草原・森林における動植物モニタリング調査
	NPO 法人流域環境保全ネットワーク	東海地方のタナゴ亜科魚類2種の遺伝的攪乱実態の解明
	神奈川トンボ調査・保全ネットワーク	絶滅危惧トンボ類の現状把握調査
	モンゴル森林再生促進研究会	「倒木遮蔽更新」仮説を応用した再生促進技術の開発
	島根県維管束植物誌編集委員会	島根県維管束植物の調査～植物誌の編纂に向けて
	生命の星・地球博物館 入生田菌類誌調査グループ	市民参加型調査に基づく大規模な地域菌類誌の出版
活動・行催事	源氏藤袴会	藤袴香る歴史・文化・伝統の町づくり「藤袴祭」
	江南の藤保存会	緑と藤棚の自然環境保全・保護プロジェクト
	特定非営利活動法人ひととみどりデザイン研究所	人と森を繋ぐ嵐山嵯峨野の風景づくりプロジェクト
	ECOKA 委員会	まちなかの花とみどりでSDGs推進事業
	特定非営利活動法人自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会	生物多様性保存型里山ビオトープの形成に関する事業
	かせやまの森創造社	生きものの谷再生プロジェクト
	特定非営利活動法人樹木研究会こうべ	木のお医者さんが伝える「樹木の生き方」
	特定非営利活動法人白神自然学校一ツ森校	白神山地における夏休みSDGs環境学習キャンプ

	助成団体名	事業名
活動・行 催事	公益財団法人金沢子ども科学財団	里山の自然を学ぼう～角間の里山自然体験
	特定非営利活動法人よこはま里山研究所	里山にかかわる暮らしを絵本などで楽しく表現し伝える
	特定非営利活動法人京おとくに・街おこしネットワ ーク	京都西山「陽光桜苑」整備計画
	つくし野ビオトーププロジェクト	地域で親子が生物多様性を体験的に学ぶ環境学習活動
	一般社団法人ソーシャルギルド	耕作放棄地から始める、環境問題を考える拠点づくり
	ウミガメネットワーク三重	第二弾 ウミガメを本物で伝える
	生駒山昆虫観察の会	「生駒山昆虫観察会 2022～森の生態を探る」
復興活 動支 援	福興浜団	菜の花迷路一般開放と菜の花畑整備
	吉里吉里花いっぱい運動実行委員会	吉里吉里花いっぱい運動
	小高はなみちプロジェクトチーム	小高まちなか菜園事業・まちなかエコシステム計画
	特定非営利活動法人 L E A F 26	「椿の路」で学ぶ SDGs と復興植栽支援事業
	特定非営利活動法人 勿来まちづくりサポート センター	花が育む高校生と地域との交流支援事業
	特定非営利活動法人 Green Fields	いわて絆の花プロジェクト
	特定非営利活動法人 パワーアップ支援室	心を支え風化を防ぐ花の防潮堤醸成プロジェクト (続)

イ. 令和5年度助成事業

令和5年度実施分について公募及び審査を行い、次のとおり助成対象団体を決定した。

①公募及び審査

公募期間：令和4年8月1日（月）～9月9日（金）

応募数：42件（調査研究10件、活動・行催事32件）

審査期間：令和4年10月～令和5年2月

②助成対象団体の決定

助成事業審査委員会の結果は令和5年2月6日付けで理事長に答申され、令和5年度の助成対象23件（調査研究5件、活動・行催事18件）を決定した。その後、第116回理事会（令和5年3月）に報告を行った。

3. 普及啓発事業及び国際交流事業

(1) 次世代育成事業

ア. 小学校講師派遣

協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、小学校に派遣する本事業は、従来の対面授業に加え、感染症対策として昨年度に引き続きオンライン授業を取り入れ、別表2の計15校（別表2）に対し、実施した。

(別表2)

実施日 (※はオンライン)	学校名、学年、児童数等	テーマ	講師
令和 4年	6月13日	池田市立呉服小学校 4年生 118名	昆虫の生態・川の環境 谷 幸三 (一般社団法人淡水生物研究所理事)
	6月20日	高槻市立北清水小学校 3年生 57名	植物のかたちと はたらき 渋谷 俊夫 (大阪公立大学教授)
	6月21日※	寝屋川市立国松緑丘小学校 6年生 47名	生き物と食べ物に ついて 佐藤 洋一郎 (京都府立大学特別専任教授)
	6月23日	大阪市立東中川小学校 3年生 46名	昆虫の生態・川の環境 谷 幸三
	7月4日	大阪市立瓜破東小学校 4年生 47名	動物の命の不思議 長瀬 健二郎 (元天王寺動物園園長)
	7月11日※	川口市立桜町小学校 6年生 65名	生き物と食べ物に ついて 佐藤 洋一郎
	7月12日	門真市立沖小学校 3年生 47名	植物のかたちと はたらき 渋谷 俊夫
	7月14日	貝塚市立津田小学校 5、6年生 68名	砂漠の水がめスイカ 池谷 和信 (国立民族学博物館教授)
	8月30日	大阪市立東桃谷小学校 4年生 37名	カタツムリの不思議な 世界 河野 甲 (カタツムリミュージアム代表)
	8月31日	大阪市立清明丘南小学校 4年生 49名	動物の命の不思議 長瀬 健二郎
	9月2日	泉南市立一丘小学校 3年生 37名	植物のかたちと はたらき 渋谷 俊夫
	9月9日	箕面市立箕面小学校 3年生 87名	動物の命の不思議 長瀬 健二郎
	9月15日※	大阪市立西島小学校 6年生 54名	ゴリラと歩いて学ぶ 自然の不思議 山極 壽一 (総合地球環境学研究所所長)
	9月28日	熊取町立北小学校 4年生 94名	動物の命の不思議 長瀬 健二郎
令和 5年	1月24日	高槻市立榎田小学校 3、4年生 16名	カタツムリの不思議な 世界 河野 甲

イ. 共生ツアー

奈良県吉野町の林業をテーマに、自然と結びついた生業、文化、景観等の成り立ちについて体験、学習するエクスカッション型ツアーを小学生の親子ペアを対象に実施した。

開催日：令和4年8月20日(土)

場所：奈良県吉野町

講師：中井章太(七代目山守、中神木材代表)

石橋輝一(吉野中央木材株式会社 専務取締役)

参加者：4組9名

行程：山守ツアー(樹木皮剥ぎ体験、ロープワーク体験)、製材所視察、吉野杉の家視察

ウ. ネイチャー甲子園

高校生が動画撮影や生きもの調査により、地域の身近な自然、それに関わる人々の生業等を紹介するコンテスト型の事業を新規に立ち上げるため、令和4年度は株式会社地域環境計画の寄附金を充当し、共催者や関係機関との調整を行い、令和5年度のスタートに備えた。

(2) 都市緑化推進運動等への協力事業

「春の都市緑化推進運動期間(4~6月)」および「都市緑化月間(10月)」における「都市緑化キャンペーン活動」等を支援するため、都市緑化推進運動協力会に協力した。

(3) 普及啓発事業

花の万博が開催された地元大阪において、理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施した。

ア. はならんまん

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に参画した。

開催日：令和4年11月5日(土)~6日(日)

主催：当協会、大阪市

場所：花博記念公園鶴見緑地(大阪市鶴見区)

来場者：約28,000名

イ. おおさか都市緑化フェア

都市緑化の意識の向上を図ることを目的としたおおさか都市緑化フェア2022に参画、出展した。

開催日：令和4年10月23日(日)

主催：当協会、大阪府、阪神造園建設業協同組合

場所：大泉緑地(大阪府堺市)

来場者：約6,000名

ウ. みどりのまちづくり賞(大阪ランドスケープ賞)

緑の街づくりを推進することを目的とした第11回みどりのまちづくり賞に参画した。

公募期間：令和4年5月18日(水)~7月19日(火)

主催：当協会、大阪府、一般社団法人ランドスケープコンサルツ協会関西支部

応募数・入賞数：23点・8点

表彰式日時：令和4年11月21日(月)午後1時30分~4時30分

場所：咲洲ホール(大阪市住之江区)

来場者：約80名

エ. 万博の桜 2025 事業

2025 年大阪・関西万博への期待感や機運を高め、関西の緑化環境の向上を目指す、募金による「2025 本の桜」植樹事業の実行委員会事務局として、寄附金受入れ及び広報事務を行った他、大阪府庁前にて植樹式を実施した。

なお、経費の一部として阪急電鉄株式会社からの寄附金を充当した。

オ. 自然と人間との共生フォーラム ～緑が育む生物多様性・生命のゆりかご～

3 公益団体のそれぞれの特性を生かし、市民への普及啓発を行う、連携・協働事業を新規に実施した。なお、令和 4 年度のスタート年度の幹事は当協会が行った。

開催日：令和 5 年 2 月 1 日（水）午後 2 時～4 時 10 分

主催：当協会、公益社団法人日本動物園水族館協会、公益社団法人日本植物園協会

後援：農林水産省、国土交通省、環境省

実施方法：オンライン

参加者：約 300 名

内容：

メッセージ 岩槻邦男（東京大学名誉教授、2016 年コスモス国際賞受賞者）

基調講演

「生物多様性が私たちにもたらしてくれる希望」

山極壽一（総合地球環境学研究所所長）

プレゼンテーション

「共生が育む植物の多様性」

川北篤（日本植物園協会理事、東京大学大学院理学系研究科附属植物園園長）

「ライチョウの生息域外保全を通して知る自然と人とのかかわり」

秋葉由紀（JAZA 生物多様性委員会ライチョウ計画管理者）

「身近な"みどり"を舞台とした人と自然をつなぐ取り組み」

橋本佳延（兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部主任研究員）

パネルディスカッション

コーディネーター 湯本貴和（京都大学名誉教授）

パネリスト 川北篤、秋葉由紀、橋本佳延

（4）その他普及啓発事業

ア. 広報・報道活動等

- ① 各事業の理解促進・普及を図るためホームページや SNS に事前告知や事業報告等を随時掲載した他、コスモス国際賞の受賞者のインタビュー映像や自然と人間との共生フォーラム等を動画サイトで公開するなど、情報発信を行った。
- ② 2022 年コスモス国際賞受賞者の業績等をまとめたパンフレット及び関連行事の内容をまとめた報告書を作成、配付するとともに、より幅広い世代にコスモス国際賞の業

績を普及させるため、2006年コスモス国際賞受賞者のラマン・スクマール博士を紹介する漫画（2,000部）を制作した。

- ③ 「自然と人間との共生」に関わる話題を提供する協会情報誌『KOSMOS』10号、11号は、新型コロナウイルス感染症特集に引き続き、「生命」をテーマとした対談、コラムを掲載し、発刊・配付した。
- ④ 普及啓発活動の一環として、花ずきんちゃんの着ぐるみを新規に制作した。
- ⑤ 今後開催が計画されている博覧会や各種イベント等の主催者に対し、博覧会や協会事業情報、写真等の提供を行った。

国・地方自治体等－13件、企業・個人－9件

- ⑥ 各種行催事等に別表3のとおり協賛・後援・会長賞の交付を行った。

(別表3)

催事名（開催時期）	開催場所	主催	名義
令和4年度大阪府立花の文化園「幼児・小中学生花の絵画展」 (R5.1.5～2.5)	大阪府立花の文化園 イベントホール (大阪府河内長野市)	大阪府、住友林業緑化・E-DESIGN 共同企業体	後援 会長賞
第19回2022周防町通り「はなまつり」 (R4.5.1～5.31)	周防町通り（堺筋～御堂筋間） と大阪市立南小学校 (大阪府中央区)	ヨーロッパ村周防町通り商店会	後援
水都 ^{もり} おおさか森林の市2022 (R4.10.23)	近畿中国森林管理局・毛馬桜之宮公園周辺 (大阪府北区)	水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会	後援
緑の講演会、探訪、植治の庭「清風荘庭園」 (R4.7.30)	WEB開催	一般財団法人日本造園修景協会京都府支部	後援
第77回日本おもと名品展 (R4.11.26～11.27)	上野グリーンクラブ (東京都台東区)	日本おもと協会	後援 会長賞
令和4年度「都市緑化月間」 (R4.10.1～10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協賛
令和4年度第42回伝統庭技研修会 (R4.11.10～11.11)	キャンパスプラザ京都 (京都市下京区)	一般財団法人日本造園修景協会	後援
緑のシンポジウム「月を愛でる庭」 銀閣寺庭園の魅力を探る (R4.12.6)	WEB開催	一般財団法人日本造園修景協会京都府支部	後援
日本フラワーデザイン大賞2022 (R4.11.26～11.27)	品川インターシティ1Fホール (東京都港区)	公益社団法人日本フラワーデザイナー協会	会長賞
小品盆栽フェア第31回春雅展 (R5.3.24～3.26)	花博記念公園鶴見緑地内 ハナミズキホール (大阪府鶴見区)	公益社団法人全日本小品盆栽協会	後援 会長賞
私のランドスケープ (R5.2.25)	京都経済センター6-F (京都市下京区) およびWEB開催	一般財団法人日本造園修景協会京都府支部	後援

(5) 国際交流事業

ア. 国際園芸博出展協力

2022年4月14日から同年10月9日にオランダで開催された「2022年アルメーレ国際園芸博覧会」での日本政府出展に協力した。また、当協会のブース出展として、7月8日から7月20日に日本の花き文化や庭園文化を紹介する展示等を行った。

4. 調査研究・資料収集事業

(1) 「校庭・園庭における生態園づくり」事業調査

過年度実施していた「校庭・園庭における生態園づくり」の取りまとめとして、事業の効果検証を行った。

5. 附属明細書

事業における重要な事項は令和4年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は、特に無いため、当年度の附属明細書は作成しない。

令和4年度

II. 庶務・管理

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日

1. 理事会、評議員会等

(1) 第113回理事会 令和4年6月8日(水)

開催場所：ステーションコンファレンス東京（東京都千代田区）

決議事項：令和3年度事業報告及び収支決算について

定時評議員会の招集について

評議員会に提出する評議員候補者（案）について

(2) 第114回理事会 令和4年7月20日(水)

開催場所：ステーションコンファレンス東京（東京都千代田区）

決議事項：2022年（第29回）コスモス国際賞受賞者の決定について

(3) 第115回理事会 令和4年10月25日(火)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：特定資産の取崩しについて

決議の省略の方法による評議員会の招集について

(4) 第116回理事会 令和5年3月17日(金)

開催場所：ステーションコンファレンス東京（東京都千代田区）

決議事項：特定資産の取崩しについて

令和5年度資産運用方針書について

令和5年度事業計画及び収支予算について

特定資産とすることについて

特定費用準備資金の保有について

コスモス国際賞委員会委員長及び委員の選任について

助成事業審査委員会委員の選任について

役員賠償責任保険の加入及び法人の保険料負担について

臨時評議員会の招集について

(5) 第61回評議員会 令和4年6月28日(火)

開催場所：阪急グランドビル会議室（大阪市北区）

決議事項：令和3年度事業報告及び収支決算書類の承認について

評議員の選任について

(6) 第62回評議員会 令和4年11月7日(月)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：特定資産の取り崩しについて

(7) 第63回評議員会 令和5年3月31日(金)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：特定資産の取り崩しについて

2. 内閣府届出及び情報公開

令和4年6月に開催した理事会、評議員会における令和3年度事業報告及び収支決算、令和5年3月に開催した理事会における令和5年度事業計画及び収支予算、令和4年6月に開催した評議員会における評議員の辞任就任について、それぞれ内閣府に届出を行った。

また、定款、名簿、財務諸表等を協会事務所に据え置いたほか、協会ホームページにも掲載し、情報公開に努めた。

3. その他

第三者委員会として資産運用管理委員会を引き続き開催し、資産運用の業務状況を調査・確認し、代表理事に対して報告を行った。

また、令和4年度に策定した新たな中期計画のうち、未着手の広報戦略をまとめるべくアドバイザー会議を開催し、検討を進めた。

令和4年度

Ⅲ. 財務諸表

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日

1. 貸借対照表

令和5年3月31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	139,947,214	150,317,186	△10,369,972
未収収益	77,270,688	79,331,912	△2,061,224
流動資産合計	217,217,902	229,649,098	△12,431,196
2. 固定資産			
(1)基本財産			
基本財産定期預金	860,000,000	860,344,700	△344,700
基本財産投資有価証券	29,400,000	29,655,300	△255,300
基本財産普通預金	600,000	0	600,000
基本財産合計	890,000,000	890,000,000	0
(2)特定資産			
記念基金	9,475,835,040	9,872,778,932	△396,943,892
退職給付引当資産	15,563,600	31,034,600	△15,471,000
国際園芸博覧会出展事業積立資産	15,000,000	20,000,000	△5,000,000
法人運営安定化資産	20,000,000	40,000,000	△20,000,000
コスモス国際賞30回記念事業積立資産	10,000,000	0	10,000,000
大阪・関西万博協力事業積立資産	10,000,000	0	10,000,000
特定資産合計	9,546,398,640	9,963,813,532	△417,414,892
(3)その他固定資産			
投資有価証券	0	494,374	△494,374
什器備品	8	8	0
その他固定資産合計	8	494,382	△494,374
固定資産合計	10,436,398,648	10,854,307,914	△417,909,266
資産合計	10,653,616,550	11,083,957,012	△430,340,462
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	46,990,255	57,084,304	△10,094,049
預り金	293,600	785,511	△491,911
賞与引当金	2,309,612	2,542,655	△233,043
流動負債合計	49,593,467	60,412,470	△10,819,003
2. 固定負債			
退職給付引当金	15,563,600	31,034,600	△15,471,000
固定負債合計	15,563,600	31,034,600	△15,471,000
負債合計	65,157,067	91,447,070	△26,290,003
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,000,000,000	10,000,000,000	0
基本財産運用益	90,000,000	90,000,000	0
特定資産運用益	800,000,000	800,000,000	0

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
特定資産評価差額金等	△524,164,960	△127,221,068	△396,943,892
指定正味財産合計	10,365,835,040	10,762,778,932	△396,943,892
（うち基本財産への充当額）	(890,000,000)	(890,000,000)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(9,475,835,040)	(9,872,778,932)	(△396,943,892)
2. 一般正味財産	222,624,443	229,731,010	△7,106,567
（うち基本財産への充当額）	(0)	(0)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(55,000,000)	(60,000,000)	(△5,000,000)
正味財産合計	10,588,459,483	10,992,509,942	△404,050,459
負債及び正味財産合計	10,653,616,550	11,083,957,012	△430,340,462

2. 正味財産増減計算書

令和4年4月1日 から 令和5年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	4,569,108	4,209,991	359,117
基本財産受取利息	4,224,408	4,209,991	14,417
基本財産投資有価証券償還益	344,700	0	344,700
特定資産運用益	249,292,308	221,098,722	28,193,586
記念基金受取利息	248,792,308	218,946,722	29,845,586
記念基金投資有価証券償還益	500,000	2,152,000	△1,652,000
受取寄付金	4,500,000	4,000,000	500,000
受取寄付金	4,500,000	4,000,000	500,000
雑収益	0	855,000	△855,000
雑収益	0	855,000	△855,000
経常収益計	258,361,416	230,163,713	28,197,703
(2) 経常費用			
事業費	211,340,873	177,707,231	33,633,642
役員報酬	8,710,730	8,790,446	△79,716
給与手当	34,172,942	35,665,018	△1,492,076
法定福利費	5,955,862	6,380,242	△424,380
退職給付費用	2,479,517	2,706,809	△227,292
賃金	3,184,144	1,420,801	1,763,343
職員厚生費	155,896	185,181	△29,285
会議費	2,483,218	474,678	2,008,540
旅費交通費	6,970,187	567,706	6,402,481
通信運搬費	2,818,050	1,854,081	963,969
広告費	736,988	1,234,594	△497,606
消耗什器備品費	882,617	2,807,063	△1,924,446
消耗品費	1,888,777	2,359,497	△470,720
印刷製本費	1,695,160	1,002,225	692,935
光熱水料費	3,685,004	2,472,583	1,212,421
役務費	106,645	89,236	17,409
委託費	48,872,123	26,186,852	22,685,271
貸借料	3,811,540	3,367,547	443,993
使用料	2,417,179	674,807	1,742,372
保険料	213,472	211,862	1,610
諸謝金	8,605,006	5,819,844	2,785,162
租税公課	25,480	8,820	16,660
支払負担金・会費	17,512,744	16,652,599	860,145

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
支払助成金	12,980,404	13,453,451	△473,047
支払手数料	306,694	286,518	20,176
顕彰賞金	40,000,000	42,715,600	△2,715,600
雑費	670,494	319,171	351,323
管理費	54,127,110	67,572,522	△13,445,412
役員報酬	3,733,170	3,767,334	△34,164
給与手当	32,035,840	32,400,504	△364,664
法定福利費	6,241,228	6,376,355	△135,127
退職給付費用	2,365,183	2,496,591	△131,408
賃金	0	608,914	△608,914
職員厚生費	148,708	170,800	△22,092
会議費	240,224	203,434	36,790
旅費交通費	1,272,250	243,303	1,028,947
通信運搬費	321,659	794,606	△472,947
広告費	0	529,112	△529,112
消耗什器備品費	358,357	1,203,027	△844,670
消耗品費	383,506	1,011,213	△627,707
印刷製本費	0	429,525	△429,525
光熱水料費	1,579,288	1,059,678	519,610
役務費	45,705	38,244	7,461
委託費	2,728,184	11,222,936	△8,494,752
賃借料	1,484,503	1,443,235	41,268
使用料	347,201	289,203	57,998
保険料	91,488	90,798	690
諸謝金	170,700	2,494,219	△2,323,519
租税公課	1,920	3,780	△1,860
支払負担金・会費	444,781	436,130	8,651
支払手数料	112,583	122,794	△10,211
雑費	20,632	136,787	△116,155
経常費用計	265,467,983	245,279,753	20,188,230
当期経常増減額	△7,106,567	△15,116,040	8,009,473
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△7,106,567	△15,116,040	8,009,473
一般正味財産期首残高	229,731,010	244,847,050	△15,116,040
一般正味財産期末残高	222,624,443	229,731,010	△7,106,567

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	4,500,000	4,000,000	500,000
受取寄付金	4,500,000	4,000,000	500,000
基本財産運用益	4,569,108	4,209,991	359,117
基本財産受取利息	4,224,408	4,209,991	14,417
基本財産投資有価証券償還益	344,700	0	344,700
特定資産運用益	249,786,682	228,879,584	20,907,098
記念基金受取利息	249,286,682	220,189,484	29,097,198
記念基金投資有価証券償還益	500,000	8,690,100	△8,190,100
特定資産評価損益等	△396,943,892	△384,459,395	△12,484,497
記念基金投資有価証券評価損益等	△396,943,892	△384,459,395	△12,484,497
一般正味財産への振替	△258,855,790	△230,551,475	△28,304,315
一般正味財産への振替	△258,855,790	△230,551,475	△28,304,315
当期指定正味財産増減額	△396,943,892	△377,921,295	△19,022,597
指定正味財産期首残高	10,762,778,932	11,140,700,227	△377,921,295
指定正味財産期末残高	10,365,835,040	10,762,778,932	△396,943,892
Ⅲ 正味財産期末残高	10,588,459,483	10,992,509,942	△404,050,459

3. 正味財産増減計算書内訳表

令和4年4月1日 から 令和5年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,370,733	3,198,375	4,569,108
基本財産受取利息	1,267,323	2,957,085	4,224,408
基本財産有価証券償還益	103,410	241,290	344,700
特定資産運用益	174,504,612	74,787,696	249,292,308
記念基金受取利息	174,154,612	74,637,696	248,792,308
記念基金投資有価証券償還益	350,000	150,000	500,000
受取寄付金	4,500,000	0	4,500,000
受取寄付金	4,500,000	0	4,500,000
経常収益計	180,375,345	77,986,071	258,361,416
(2) 経常費用			
事業費	211,340,873	0	211,340,873
役員報酬	8,710,730	0	8,710,730
給与手当	34,172,942	0	34,172,942
法定福利費	5,955,862	0	5,955,862
退職給付費用	2,479,517	0	2,479,517
賃金	3,184,144	0	3,184,144
職員厚生費	155,896	0	155,896
会議費	2,483,218	0	2,483,218
旅費交通費	6,970,187	0	6,970,187
通信運搬費	2,818,050	0	2,818,050
広告費	736,988	0	736,988
消耗什器備品費	882,617	0	882,617
消耗品費	1,888,777	0	1,888,777
印刷製本費	1,695,160	0	1,695,160
光熱水料費	3,685,004	0	3,685,004
役務費	106,645	0	106,645
委託費	48,872,123	0	48,872,123
賃借料	3,811,540	0	3,811,540
使用料	2,417,179	0	2,417,179
保険料	213,472	0	213,472
諸謝金	8,605,006	0	8,605,006
租税公課	25,480	0	25,480
支払負担金・会費	17,512,744	0	17,512,744
支払助成金	12,980,404	0	12,980,404
支払手数料	306,694	0	306,694
顕彰賞金	40,000,000	0	40,000,000
雑費	670,494	0	670,494

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
管理費	0	54,127,110	54,127,110
役員報酬	0	3,733,170	3,733,170
給与手当	0	32,035,840	32,035,840
法定福利費	0	6,241,228	6,241,228
退職給付費用	0	2,365,183	2,365,183
職員厚生費	0	148,708	148,708
会議費	0	240,224	240,224
旅費交通費	0	1,272,250	1,272,250
通信運搬費	0	321,659	321,659
消耗什器備品費	0	358,357	358,357
消耗品費	0	383,506	383,506
光熱水料費	0	1,579,288	1,579,288
役務費	0	45,705	45,705
委託費	0	2,728,184	2,728,184
賃借料	0	1,484,503	1,484,503
使用料	0	347,201	347,201
保険料	0	91,488	91,488
諸謝金	0	170,700	170,700
租税公課	0	1,920	1,920
支払負担金・会費	0	444,781	444,781
支払手数料	0	112,583	112,583
雑費	0	20,632	20,632
経常費用計	211,340,873	54,127,110	265,467,983
当期経常増減額	△30,965,528	23,858,961	△7,106,567
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△30,965,528	23,858,961	△7,106,567
当期一般正味財産増減額	△30,965,528	23,858,961	△7,106,567
一般正味財産期首残高	79,531,236	150,199,774	229,731,010
一般正味財産期末残高	48,565,708	174,058,735	222,624,443
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	4,500,000	0	4,500,000
受取寄付金	4,500,000	0	4,500,000
基本財産運用益	1,370,733	3,198,375	4,569,108
基本財産受取利息	1,267,323	2,957,085	4,224,408
基本財産有価証券償還益	103,410	241,290	344,700
特定資産運用益	174,850,674	74,936,008	249,786,682
記念基金受取利息	174,500,674	74,786,008	249,286,682
記念基金投資有価証券償還益	350,000	150,000	500,000
特定資産評価損益等	△277,860,724	△119,083,168	△396,943,892
記念基金投資有価証券評価損益等	△277,860,724	△119,083,168	△396,943,892

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
一般正味財産への振替	△180,721,407	△78,134,383	△258,855,790
一般正味財産への振替	△180,721,407	△78,134,383	△258,855,790
当期指定正味財産増減額	△277,860,724	△119,083,168	△396,943,892
指定正味財産期首残高	7,509,945,260	3,252,833,672	10,762,778,932
指定正味財産期末残高	7,232,084,536	3,133,750,504	10,365,835,040
Ⅲ 正味財産期末残高	7,280,650,244	3,307,809,239	10,588,459,483

4. 財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

①満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)によっている。

②満期保有目的の債券以外の有価証券

期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

その他の固定資産

什器備品…定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金

職員の退職手当の支給に備えるため、職員の退職手当支給規程に基づき、期末要支給額を計上している。

賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	860,344,700	0	344,700	860,000,000
投資有価証券	29,655,300	29,400,000	29,655,300	29,400,000
普通預金	0	600,000	0	600,000
小 計	890,000,000	30,000,000	30,000,000	890,000,000
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
記念基金	9,872,778,932	2,027,221,068	2,424,164,960	9,475,835,040
退職給付引当資産	31,034,600	4,844,700	20,315,700	15,563,600
国際園芸博覧会出展 事業積立資産	20,000,000	10,000,000	15,000,000	15,000,000
法人運営安定化資産	40,000,000	0	20,000,000	20,000,000
コスモス国際賞30回 記念事業積立資産	0	10,000,000	0	10,000,000
大阪・関西万博協力 事業積立資産	0	10,000,000	0	10,000,000
小 計	9,963,813,532	2,062,065,768	2,479,480,660	9,546,398,640
合 計	10,853,813,532	2,092,065,768	2,509,480,660	10,436,398,640

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	860,000,000	(860,000,000)	(0)	-
投資有価証券	29,400,000	(29,400,000)	(0)	-
普通預金	600,000	(600,000)	(0)	-
小 計	890,000,000	(890,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
記念基金	9,475,835,040	(9,475,835,040)	(0)	(0)
退職給付引当資産	15,563,600	-	-	(15,563,600)
国際園芸博覧会出展 事業積立資産	15,000,000	-	(15,000,000)	(0)
法人運営安定化資産	20,000,000	-	(20,000,000)	(0)
コスモス国際賞30回 記念事業積立資産	10,000,000	-	(10,000,000)	(0)
大阪・関西万博協力 事業積立資産	10,000,000	-	(10,000,000)	(0)
小 計	9,546,398,640	(9,475,835,040)	(55,000,000)	(15,563,600)
合 計	10,436,398,640	(10,365,835,040)	(55,000,000)	(15,563,600)

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	品 名	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	花博会場模型	10,036,290	10,036,289	1
	コスモス国際賞頭彰品レプリカ	2,200,000	2,199,999	1
	ラフレシア(花)標本	4,506,293	4,506,292	1
	DVDレコーダー	165,000	164,999	1
	液晶テレビ	593,620	593,619	1
	ノートパソコン	193,200	193,199	1
	デジタルビデオカメラ	106,500	106,499	1
	プロジェクター	147,000	146,999	1
合 計		17,947,903	17,947,895	8

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
基本財産			
第160回利付国債	29,400,000	29,942,850	542,850
小 計	29,400,000	29,942,850	542,850

6 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	4,224,408
基本財産投資有価証券償還益	344,700
記念基金受取利息	249,286,682
記念基金投資有価証券償還益	500,000
受取寄付金	4,500,000
合 計	258,855,790

7 その他公益法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項

金融商品の状況に関する事項

1. 金融商品に対する取組方針

当法人は、法人運営の財源の大部分を運用益によって賄うため、債券、デリバティブ取引を組み込んだ複合金融商品により資産運用する。

当法人が利用するデリバティブ取引は、デリバティブを組み込んだ複合金融商品(仕組債、仕組預金)のみであり、運用限度枠を設けている。なお、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針である。

2. 金融商品の内容及びそのリスク

記念基金に含まれる投資有価証券は、債券、デリバティブ取引を組み込んだ債券(仕組債)が含まれており、発行体の信用リスク、市場リスク(金利の変動リスク、為替の変動リスク及び市場価格の変動リスク)にさらされている。なお、当該投資有価証券には、リスクが高いものとして、中途解約が著しく制約されていることにより、満期到来までに資金化することが困難な流動性に乏しい債券(仕組債)4,828百万円が含まれている。

3. 金融商品のリスクに係る管理体制

①資産運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の資産運用管理規程及び資産運用基準に基づき行う。

②信用リスクの管理

債券及び仕組債については、発行体の信用情報や時価の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

5. 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記3. に記載している。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	2,542,655	2,309,612	2,542,655	0	2,309,612
退職給付引当金	31,034,600	4,844,700	20,315,700	0	15,563,600

6. 財産目録

令和5年3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額		
(流動資産)	現金預金					
	現金	手元保管	運転資金として	117,870		
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	運転資金として	102,433,904		
		三井住友銀行大阪公務部	運転資金として	25,961,503		
		三菱UFJ信託銀行大阪法人営業部	運転資金として	898,640		
		三井住友信託銀行大阪本店営業部	運転資金として	10,535,297		
			現金預金合計	139,947,214		
	未収収益		公益目的事業及び管理目的の財源として使用する債券等の未収利息	77,270,688		
流動資産合計				217,217,902		
(固定資産)	基本財産	普通預金	りそな銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	600,000	
				うち公益目的保有財産である	180,000	
				うち管理目的の財源として使用する財産である	420,000	
		定期預金	三井住友信託銀行大阪本店営業部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	860,000,000	
				うち公益目的保有財産である	258,000,000	
				うち管理目的の財源として使用する財産である	602,000,000	
		投資有価証券	第160回利付国債	満期保有目的で保有し、運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	29,400,000	
				うち公益目的保有財産である	8,820,000	
				うち管理目的の財源として使用する財産である	20,580,000	
				基本財産合計	890,000,000	
	特定資産	記念基金			9,475,835,040	
		投資有価証券	関西国際空港20年債他	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	9,468,961,040	
				うち公益目的保有財産である。	6,628,272,728	
					うち管理目的の財源として使用する財産である。	2,840,688,312
		普通預金	りそな銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	6,874,000	
				うち公益目的保有財産である。	4,811,800	
				うち管理目的の財源として使用する財産である。	2,062,200	
退職給付引当資産				15,563,600		
普通預金	りそな銀行大阪公務部		退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	15,563,600		
国際園芸博覧会出展事業積立資産				15,000,000		
普通預金	三井住友銀行大阪公務部		公益目的保有財産であり、ドーハ園芸博覧会出展事業及び横浜園芸博覧会出展事業の財源として管理している。	15,000,000		

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
その他固定 資産	法人運営安定化資産			20,000,000
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	公益目的保有財産であり、法人運営安定化の財源として管理している。	20,000,000
	コスモス国際賞30回記念事業積立資産			10,000,000
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	公益目的保有財産であり、コスモス国際賞30回記念事業の財源として管理している。	10,000,000
	大阪・関西万博協力事業積立資産			10,000,000
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	公益目的保有財産であり、2025年の大阪・関西万博協力事業の財源として管理している。	10,000,000
			特定資産合計	9,546,398,640
	什器備品	花博会場模型等	公益目的事業及び管理目的の財産として使用している。	8
固定資産合計				10,436,398,648
資産合計				10,653,616,550
(流動負債)				
	未払金	令和4年度助成事業対象者に対する未払額等	公益目的事業及び管理目的の業務等未払い分	46,990,255
	預り金	役職員に対するもの	住民税	293,600
	賞与引当金	職員に対するもの	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の賞与の引当金である。	2,309,612
流動負債合計				49,593,467
(固定負債)				
	退職給付引当金	職員に対するもの	職員7名に対する退職金の支払いに備えたもの	15,563,600
固定負債合計				15,563,600
負債合計				65,157,067
正味財産				10,588,459,483

令和4年度

IV. 監査報告書

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日

監査報告書

令和5年5月26日

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

会長 御手洗 富士夫 様

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事

北山 諒一

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事

崎元 利樹

私たち監事は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意志疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会その他必要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上